

平成 20 年 3 月 11 日

5 号機使用済燃料プールにおける  
ナットの発見・回収に関する調査結果について

平成 20 年 1 月 10 日、当所 5 号機において、定期検査の準備作業として使用済燃料プール内で制御棒などの収納ラック据え付け作業を行っていたところ、同日午前 11 時 15 分頃、当社社員が、使用済燃料プール底部にナット 1 個（外径約 1 cm×厚さ約 0.5cm）があることを発見したことから、午後 2 時 13 分頃、回収いたしました。

当該ナットの落下位置は、燃料の保管場所から離れており、安全上問題はないものと考えておりますが、今後、原因について調査いたします。

（[平成 20 年 1 月 10 日お知らせ済み](#)）

調査の結果、以下のことがわかりました。

- ・前回の定期検査（平成 18 年）において、当該ナット発見場所の近傍で中性子計測装置（局部出力領域モニタ\*）の切断作業を行っており、切断した中性子計測装置を収納する容器に取り付けられたワイヤーの留め具に、同形状のナットを複数使用していたこと。
- ・ワイヤーに取り付けるナットは当該プールに設置されることから、持ち込む際に異物混入防止管理の対象外物品として予備のナットを含め員数管理せずに持ち込んでいたこと。
- ・使用済燃料プール内および当該プール上で使用される設備・機器において、同形状のナットの使用状況を確認したが脱落しているナットはなかったこと。

以上のことから、当該ナットは、前回の定期検査で実施した中性子計測装置切断作業において、ワイヤーの留め具に使用するナットの予備のナットである可能性が高いものと推定いたしました。

対策として、今後の中性子計測装置切断作業においては、ナットを使用しない留め具と一体型のワイヤーを使用することといたします。

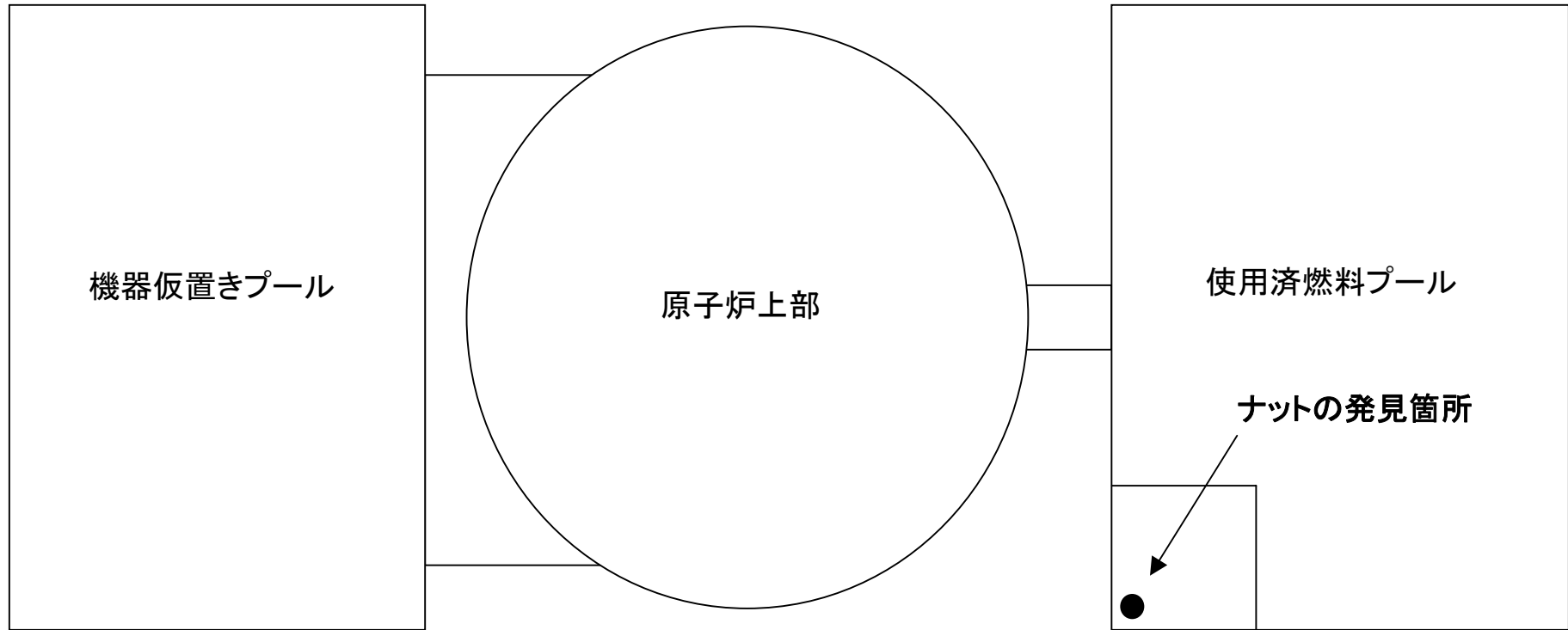
また、必要数量以外の物品を異物混入防止管理エリアへ持ち込まないことを再徹底するとともに、引き続き異物混入防止対策を徹底いたします。

以 上

\* 局部出力領域モニタ

原子炉出力の状態を監視する装置で、多数の検出器を炉内に設置し、原子炉内の局部の出力を測定するための装置。

原子炉建屋5階平面図



5号機 使用済燃料プールでのナット発見箇所概略図